

ファイナルレポート (日本語抄訳版)



2025 年 12 月 11 日

株式会社メッセ・デュッセルドルフ・ジャパン

MEDICA / COMPAMED 2025

MEDICA はヘルスケア業界のトレンドを創出し、2026 年にさらに進化

「多数のプログラム改編と新たなテーマ『Meet Health. Future. People.』」を掲げ、今年の MEDICA を国際ヘルスケア産業の変革に向けたプロセスの出発点と位置づけました。将来を見据えたコンセプトにより、この変革を主体的に推進していくという弊社の姿勢を明確にしました。2026 年においても、さらなるイノベーションを通じて、この変革の道を一貫して進めてまいります。」と、メッセ・デュッセルドルフ coo のマリウス・ベルレマンは、MEDICA 2025 および同時開催の COMPAMED 2025 の成果を総括しています。



今年は 70 か国以上から総勢 5,300 社を超える出展者が参加し、11 月 17 日から 20 日までの会期中、デュッセルドルフ見本市会場にて、外来・入院医療の最新ソリューションを網羅的に紹介しました。ハイテク・サプライヤーによる革新的技術をはじめ、世界でも類を見ない幅広い製品・サービスが披露されました。なお、2026 年の MEDICA および COMPAMED の出展申込受付開始（1 月 20 日）に向け、会期中に実施した数多くの出展者インタビュー結果を踏まえ、主要テーマの再構築を最新トレンドに沿って進めてまいります。

MEDICA および COMPAMED が質の高い商談機会を確実に提供する場であることは、今回の来場者データからも改めて裏付けられました。来場者総数 78,000 名のうち、4 分の 3 が企業・団体の経営層に属していました。また、来場者の 75% は 160 か国からの海外来訪者であり、湾岸諸国、アフリカ、英國国民保健サービス (NHS) を含む国際的に著名なバイヤーデリゲーションが来訪したこと、両展示会のグローバルな存在感が一層強調

されました。

ドイツ連邦保健相二ナ・ヴァルケン氏および EU 保健担当欧州委員オリバー・ヴァヘイ氏による会場視察お



より円卓会議に関連して、メッセ・デュッセルドルフ CEO ベルレマンは、MEDICA および COMPAMED が業界の意思決定層にとって「まさに集うべき場 (place to be)」である魅力を強調しています。「MEDICA と COMPAMED は、国内外の政治、医療、産業、学術分野のトップレベルが、機会と課題について議論するコミュニティプラットフォームへと進化しています。デュッセルドルフにおいて、ヘルスケアビジネス成功への道筋が形作られているのです。」10月1日付で MEDICA のダイレクターに新たに就任したカルメン・ベルガーは次のように述べています。

「初日の二ナ・ヴァルケン保健相、続く2日目のヴァヘイ欧州委員による業界リーダーとの非公開ラウンドテーブルは、効果的な医療手法や技術を医療現場に迅速に導入するためには、規制プロセスの加速が不可欠であることを明確に示しました。」さらに、会場内の視察では、医療技術産業および研究機関が持つ圧倒的なイノベーション力が改めて浮き彫りとなりました。

「供給側の条件は極めて良好であり、業界には未だ大きく開花していない成長ポテンシャルが存在しています。」とベルガー氏は述べています。

< MEDICA の焦点：成長可能性を備えたグローバルビジネス >

米国ミネソタ州知事（および 2024 年米国副大統領候補）ティム・ウォルツ氏は、MEDICA 来訪の機会を捉え、英国 NHS からのハイレベル代表団の来場に合わせて会合を実施しました。その後、ノルトライン＝ヴェストファーレン州 (NRW) の大規模パビリオンを訪れ、同州が誇る最先端技術および州内の高度医療施設における医療技術の活用可能性について理解を深めました。これにより、医療技術分野で最も重要な市場である北米と欧州（特にドイツ）が、強まる世界的な貿易規制の影響に対し、緊密な対話と長期的パートナーシップによって最も効果的に対応できることが示されました。



また、サウジアラビアも現在、特に注目すべき成長市場であることが、ファハド・アブドルラフマン・アルジャラジル保健相（H.E. Fahad Abdulrahman Al-Jalajel）の来場によって明らかになりました。同相は会場視察において、ウェアラブル分野の最新動向や、特別企画「Hospital of the Future」で紹介されたデジタル病院インフラ向けの革新的ソリューションについて説明を受けました。同国は「ビジョン 2030」のもと、医療制度の近代化を目指し、ネットワーク型医療システム、遠隔医療、臨床工クセレンスセンターへの投資など、野心的な目標を掲げています。

こうした背景から、MEDICA の展示やステージプログラムで紹介されたロボティクス関連技術への需要は今後さらに高まると見られます。医療ロボティクスは現在、年率最大 16%の高い成長が今後 5 年間続く見込みです。これは、メッセ・デュッセルドルフが業界団体 SPECTARIS と共同で作成し、会期中に発表した「Robotics in Healthcare（医療におけるロボティクス）」調査報告に基づくものです。

＜来場者の注目を集めた新たなハイライト：未来のヘルステックを発信する特別出展ゾーン＞

MEDICA 2025 では、特に実装に直結する先進的イノベーションが、新設の「MEDICA INNOVATION FORUM」（ホール 12）において披露されました。同フォーラムは、隣接する MEDICA START-UP PARK や Wearables Technologies Show と密接に連携し、未来のヘルステックにフォーカスした新たな中核拠点として機能。会期中を通じて非常に高い注目を集め、大きな賑わいを見せました。



デジタルヘルスの先駆者ダニエル・クラフト氏、AI 専門家のポール・ルコヴィツ教授、『シュピーゲル』誌ベストセラー作家トマス・シュルツ氏といった著名なスピーカーが登壇したほか、第 14 回 MEDICA START-UP COMPETITION や第 17 回 HEALTHCARE INNOVATION WORLD CUP といったスタートアップ競技会も開催され、専門来場者を魅了しました。これらのプログラムは、ヘルスケア分野における幅広いイノベーション創出に大きな刺激を与えました。

また、特別ネットワーキング企画「Women Leaders in Healthcare」は、国際ヘルスケアビジネスにおける革新力に不可欠なダイバーシティの重要性を改めて強調するものとなりました。

＜起業家スピリットのダイナミズムが過去最高レベルに＞

第 14 回 MEDICA START-UP COMPETITION の優勝は、わずか 90 秒で新生児を含む患者の骨髄に迅速にアクセス

でき、救命につながる特別な注射デバイスを開発したオーストリアの Svan Technologies が獲得しました。また、本年の「HEALTHCARE INNOVATION WORLD CUP」では、イスラエルの Nanose Medical が優勝。肺がんや重度肝疾患の診断に向け、呼気サンプルをリアルタイムでデジタル解析する小型デバイスが高く評価されました。

さらに、80 社を超えるスタートアップが参加した MEDICA START-UP PARK では、スタートアップシーンの旺盛な活力が示されました。HeartHero (米国) は、必要時のみ自動的に除細動を行う携帯型で使いやすい AED を紹介。Healex (ドイツ) は、治験管理および請求業務を自動化し、手続きを大幅に効率化するデジタルプラットフォームを発表しました。また、Bottneuro (スイス) が披露した新製品「Miamind」は、アルツハイマー病やうつ症状の軽減を目的とした精密な経頭蓋脳刺激を可能にする特注 3D ヘルメットとして、特に大きな注目を集めました。



Bottneuro の CEO であるトーマス・ヘフティ氏は、MEDICA への出展効果について次のように述べています。「革新的な製品を持つスタートアップとして、MEDICA の Start-up Park への出展は、販売や製造に関わる多様なパートナーとのネットワーク構築に最適なプラットフォームとなりました。」

<同時開催 COMPAMED: ハイテク・サプライソリューションに焦点>

新たなスローガン「Meet Health. Technology. Innovators.」のもと、COMPAMED はホール 8a および 8b にて充実したプログラムを開催しました。ステージプログラムやネットワーキング企画を交え、750 社の出展者が、医療の進展に決定的な役割を果たす最新のハイテク部品とイノベーションを紹介。マイクロテクノロジー、センサー技術、エレクトロニクス (MEDICA で展示された高度化したスマート製品に不可欠な分野)、さらには新素材、包装ソリューション、フルターンキーの受託製造サービスに至るまで、多岐にわたる技術が披露されました。



<MEDICA と COMPAMED の未来へ向けた新たな方向性の提示>

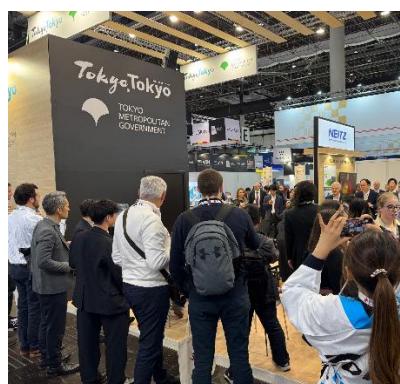
本年の開催を締めくくるにあたり、MEDICA および COMPAMED を統括するカルメン・ベルガーは、今後への

強い意欲を示しています。

「2026 年からは、パートナーの皆様とともに新たな道を切り開いていきます。将来的には、MEDICA と COMPAMED の両展をこれまで以上に緊密に統合し、相乗効果を最大化するとともに、その国際的な存在感を一層拡大してまいります。加えて、各種フォーラムや交流プラットフォームについても、産業界、学術界、政治、そして医療現場をつなぐ、より集中的で学際的な対話の場へと進化させていく予定です。MEDICA および COMPAMED 2026 は、現代医療があるべき姿—“つながり、直感的で、的確であること”—を体現するメッセージへと発展させたいと考えています。」

<日本から両展合計 121 社が出展、京セラ、デンソー、SMC など日本の大手企業が存在感を一段と強める>

今年、革新的なスタートアップから大手メーカーに至るまで、多様な日本企業 121 社（MEDICA 73 社、COMPAMED 48 社）が出展し、欧州の来場者に向けて自社製品を披露しました（欧州などからの日系現地法人出展は上記とは別に 25 社出展）。



MEDICA のホール 15 には今回もジェトロ運営の 22 社（10 社は初出展）が参加するジャパン・パビリオンが設置され、同ホールには東京都（10 社参加、写真）、千葉県（4 社参加）が昨年通り設置されました。



パビリオンの設置に加え、JETRO と東京都は MEDICA COMPAMED 会期中、ホール 15 から離れた他のホールのテーマに合わせ、様々なイベントを開催しました。そのうち MEDICA 初日にホール 9 の「Tech Forum」で行われた JETRO のネットワーキングセッション（写真）にて開催された出展者ピッチイベントには参加者が 100 名以上集まり、大成功でした。

同じく COMPAMED では東京都（5 社）、さいたま市（7 社）、大田区（4 社）、福島県（6 社）、信州大学（5 社）が今回も継続的にパビリオンを設置しました。ホール 8b で日本のアピールを強化し、各自治体の中小企業や取引メーカーの出展や商談をサポートしました。

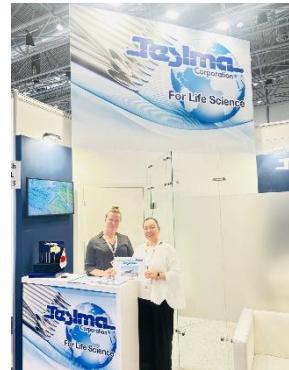
今年のさいたまのパビリオンには過去最大の 7 社が参加しました。



パビリオン担当者より、「来場者は昨年と比べ少ない印象ですが、継続出展で既存顧客との商談やフォローができました。また、事前にマッチング候補先企業へのアポ取りで具体的な案件につなげることができました。」とコメントをいただきました。

日本最大級の展示会場の数倍の規模を持つ欧州の展示会に出展するにあたり、潜在顧客の招待、事前アポ取り、マッチメイキング機会の活用、魅力的なブース装飾といった事前準備がいかに重要であるかを改めて示すコメントです。

数年にかけて単独に継続的に COMPAMED へ出展している手島精管株式会社は「今回の出展は、弊社の回復出展という事もあり、多くのお客様に戻ってきて頂き、大成功でした。ありがとうございました。」とコメントし、継続出展にて知名度向上できました事例企業となります。



MEDICA の日本出展者の同展参加に関するコメントを以下に紹介します。

「2023 年にも MEDICA に出展しましたが、今回は当時よりも多くの方にアプローチすることができました。一方で、想定以上に多くの来場者とやり取りしたため、後から名刺とご本人の顔が結びつかない場面がありました。今後は対応策を検討し、次回の展示会ではより円滑にコミュニケーションが取れるよう改善したいと考えています。」（株式会社ヒューマン・エンジニアリング/ジェトロ・パビリオン/爪部メラノーマ診断支援プログラム）

「来年ヨーロッパ進出につながる非常に良い展示会でした」（MedVigilance 株式会社/東京都・パビリオン/スマートリング）

「東京パビリオンのご協力で去年に続き 2 回目の出展になりました。以前から目標にしているドイツとフランスの新規代理店開拓に向け、今回は対象国の来場者も確認できたので目標達成に一歩近づいたと思います。また、来場者数も去年を上回る結果になりました。」（太陽商事/東京都・パビリオン/OPELAIICx）

「5 年ぶりの出展ですが、良かったです。来年も出展したいです。」（株式会社 KIMAUJOJAPAN/採血準備システム）

「来場者はかなり少なく感じたが、販売店候補が複数社見つかったため、展示会としては成功であった。」（本多電子株式会社/ジェトロ・パビリオン/大動物向超音波診断装置）

「来場者数全体は年々減少傾向にあるものの、当社ブースでは昨年を上回る数の来場者コンタクトを獲得することができ、良い結果となりました。」(TDK 株式会社/3D スキャナー、マグネット系センサー)

「ホールへの来場者数は少な目であったが、例年よりよい引き合いを多く得ることができた。」(Meilleur Co., Ltd./ディスポーザブルス)



「想定したよりも多くの来訪者にブースにお立ち寄り頂きました。弊社商品を初めて目にする方が殆どで関心を持って商談頂けました。今後の販路開拓のきっかけとなる商談候補も複数出てまいりました。」(アイオニック株式会社/千葉県・パビリオン/マイナスイオン歯ブラシ)

次に COMPAMED の日本出展者からのコメントを紹介します。



「これまでに出展した展示会の中では、JFC OCP に対するブース訪問者の理解度が突出して高かった。基本的・初步的な質問は一切なく、本質的な質問をされることがほとんどだった。

これは有料チケットで入館しており、かつ海外からだと旅費もかかっているので、来訪者の真剣度が高いからだと思う。事前に JFC の LP (ランディングページ) を見て、資料を DL したところは、2~3 項目を確認して、パンフレットは不要と言い、サンプル提供を要望してくれて、手応えを感じた。」(日本ファインセラミックス株式会社 (初出展) /セラミックス材料)

「期待したより多くの来場者があり、盛況な展示会であった。当社ブースには想定した用途以外の引き合いもあり、今後のマーケティング戦略立案において非常に参考になった。但し、食事（ランチ）のコストが日本の市場価格の4~5倍となっております。」(ニイミ産業株式会社 (初出展) /セラミックスポンプ部品)



「当社ブースへの来場者数は、想定していた期待を下回った結果であったが、COMPAMED の出展社情報ツールを活用し、事前に、新規取引先となりえるブースを洗い出すことが出来た為、様々なブースへ売込を行う事ができ、全般的には、有意義な展示会であった。」(モリマシナリー株式会社/大田区・パビリオン/レーザー溶接造管設備)

両展日本出展企業のコメントは以下でもお読みいただけます。

「MEDICA 出展者の声」

<https://medica.messe-dus.co.jp/exhibitors/testimonials>

「COMPAMED 出展者の声」

<https://compamed.messe-dus.co.jp/exhibitors/testimonials>

その他の情報は下記リンクをご確認ください。

<https://www.medica-tradefair.com>
<https://www.compamed-tradefair.com>

<https://medica.messe-dus.co.jp/>
<https://compamed.messe-dus.co.jp/>

次回の MEDICA、COMPAMED は 2026 年 11 月 16 日～19 日、ドイツ・デュッセルドルフにて開催されます。両展はホールのレイアウト、出展対象ルールなどが更新されるため、出展申込がいつもより遅く 1 月 20 日に開始されます。また、メッセ・デュッセルドルフグループがグローバルに手がける医療業界向けメッセの情報は、こちらからオンラインでご覧ください：<https://www.medicaliance.global>

【本リリースに関するお問い合わせ先】

株式会社メッセ・デュッセルドルフ・ジャパン 担当：ラーベ
〒102-0094 東京都千代田区紀尾井町 4-1
ニューオータニ ガーデンコート 7F
TEL: 03-5210-9951 Mail: mdj@messe-dus.co.jp